

JCDかわら版

一般社団法人 日本コンクリート診断士会

メールかわら版発刊にあたって

メールかわら版第1号を皆様にお届けすることができ、大変うれしく存じます。このメールかわら版が、全国の会員の連携と診断士会のより一層の発展につながることを期待しています。

会長 林 静雄



広報部会としての初仕事が大役となりました

今年より広報部会長を務めさせて頂いております、静岡コンクリート診断士会(SCD)の名倉です。初仕事がJCDのかわら版作成とのこと、いろいろと悩みましたが、幹事会メンバー等の応援の元、なんとか形になりました。SCDを発足して8年になりますが、産学官の様々なメンバーに囲まれ多くの体験と色々な考え方を経験させて頂きました。また、全国の診断士の方々との交流は、診断士としての仕事以上の大事な仲間を得る機会になったと感じております。全国組織として日本コンクリート診断士会が発足して3年が経過しました。SCD以上に様々な職種の方々が一つの趣意の元集まった会ですから、これから多くの方々の交流と技術の研鑽の助けになればという気持ちを背負い、今回のメールかわら版を発刊させて頂きました。初刊のかわら版という事もあり、まだまだ至らぬ処も多いと思いますが、会員の皆様のご意見等を頂きながら、今後もっと素晴らしいかわら版として行きたいと思っておりますので、ご意見ご感想を頂ければと思います。

日本コンクリート診断士会 理事
静岡コンクリート診断士会 会長
名倉 昭三

活動近況

2014. 5

第5回定時社員総会

2014. 6

診断士受験対策講座

2014. 8

石岡耐震補強工事見学会

2014. 9

東京・長野合同見学会

2014. 11

第2回業務体験発表会 予定

詳しくは HP をご覧ください



小野副会長を静岡に迎え合同での調査を行いました。現場での様々な意見が我々の大きな財産となりました。

地区診断士会の紹介

本部東京に一番近い「静岡コンクリート診断士会」

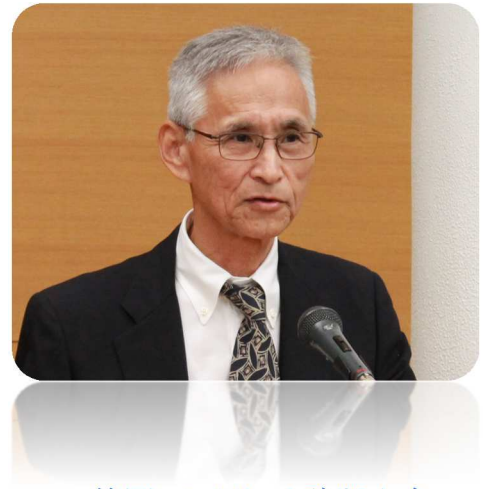
平成 18 年に 16 名でスタートして、8 年目に突入しました。現在会員数 57 名までになり、発足当初より技術の研鑽はもちろんのことですが、診断士という資格制度の認知の為に、官公庁への働き掛けに重点をおいて活動してまいりました。

その成果もあってか、毎年実施している通常総会後の「技術研修会」では、今年は国・県・市等の行政関係者約 130 名をお迎えしての研修会を開催することができました。

また、毎年県の土木技術職員研修等に講師派遣の依頼を頂いたり、初期欠陥などの相談も多く寄せられる様になって来たことは大変にありがたいことと思っております。

診断士の資格がもっと有効なものとなるためには、全国組織である JCD の認知度向上が最速・最善であると思っておりますので、本部東京に一番近い診断士会として微力ながら本部への協力を積極的に行っていきたいと思っております。

静岡は良質な骨材が豊富な県ですが、様々な劣化もありますので、お近くにお越しの際は声を掛けて下さい。



静岡コンクリート診断士会
名倉会長

昨年、四国歩き遍路をやっと
結願しました
今年からは
電動(アシスト)自転車で
再挑戦を計画中です
食べる事が大好きなので
静岡にお越しの際は
美味しい鰻店紹介しますよ



静岡県浜松市のご当地グルメと言えば、
「浜松餃子」
名倉会長が 40 年以上通っている店との事
会長曰く
「この餃子を食べってから宇都宮と比較して下さい」
お店の場所は最終ページで...

静岡コンクリート診断士会 活動近況

- 2014. 5 診断士受験対策講習会
静岡県土木技術職員研修に講師派遣
- 2014. 6 通常総会
Co 建造物の診断・補修技術研修会
- 2014. 7 土木施工管理技師会清水地区
講師派遣
- 2014. 9 東京・長野合同見学会 参加

診断士関連記事紹介

コンクリート工学・日経コンストラクション・
土木学会誌等に掲載された記事の紹介
です ※H26.4より H26.9までをピックアップしてみました



【コンクリート工学】



巻号	タイトル
Vol52, No4	尿素を用いたコンクリートのひび割れ低減技術
Vol52, No5	コンクリート構造物の品質確保のためのデータベースの活用 高速道路橋の大規模更新における高炉スラグ微粉末の適用
Vol52, No6	東日本大震災に関する特別委員会の報告と提言 土木学会「2012年制定コンクリート標準示方書[設計編]の塩害照査」に関する改訂資料 新名神高速道路 朝明川橋、小牧高架橋の下部施工におけるひび割れ防止対策 講座 補修・補強材料入門 ①ひび割れ注入材 (一社)コンクリート診断士会(JCD)第一回業務体験報告会の報告
Vol52, No7	土木学会「コンクリートのあと施工アンカー工法の設計・施工指針」(案)の制定について 講座 補修・補強材料入門 ②断面修復材と表面被服材 コンクリートの養生技術
Vol52, No8	JISJA5308(レディーミクスコンクリート)の改正について コンクリートのひび割れ調査・補修・補強指針-2013-について 赤外線熱画像と可視画像によるコンクリート構造物の劣化診断技術の開発と適用 東海北陸自動車道鷺見橋(Ⅱ期線)の維持管理と近接影響を考慮した計画・設計 東北大学工学部キャンパスにおける震災復興建築の設計及び施工 講座 補修・補強材料入門③予防保全対策に用いられる材料 コンクリートのサステナビリティに関する国際ワークショップ
Vol52, No9	維持管理技術の発展と人の役割 コンクリート構造物の長寿命化と地域住民との関わり 既存建物の調査・診断-教材・マニュアルでは教えきれない人材教育 維持管理ニーズを踏まえたセンシング技術利用と開発 コンクリート構造物の補修と技術者の関わり 実務経験に基づくコンクリート構造物の補修・補強設計における要点



【土木学会、土木学会論文集 E2】

巻号	タイトル
Vol.70No.1	シラン系含浸材を用いた叩き落し部近傍の再劣化低減工法の提案
Vol.70No.2	塩害による鉄筋腐食が道路橋RC床版の耐疲労性に及ぼす影響 樹脂注入による豆板補修工法の提案と各種材料強度の評価
Vol.70No.3	曝露試験結果に基づいた外部塩害を受けるコンクリート構造物の鉄筋腐食進行予測法の提案 塩害による腐食劣化予測に対する構造・鋼材腐食連成解析手法の構築 山間寒冷地におけるRC床版のASRと凍害による複合劣化の事例とその検証実験
Vol.99-07	倫理・社会規範委員会 特集-アセットマネジメント導入から10年 「ドボクまち歩き2」土木構造物を見る視点 社会インフラ維持管理・更新の重点課題検討委員会
Vol.99-08	特集-交通と一体的に進める持続可能なまちづくり インフラ点検技術で米国市場進出



【国交省発表資料等】下記のHPをご覧ください

・インフラ長寿命化計画：http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/sosei_point_mn_000011.html

【日経コンストラクション】



巻号	タイトル
2014.4.14	維持修繕の間接工事費引き上げ、国交省の積算基準 時速50kmで覆工背面の空洞探査
2014.4.28	点検や診断の資格を15年度以降の発注要件に、国交省 市町村を支援する道路メンテ協議会、群馬と三重で設立 クイズ 維持・補修に強くなる 第4回 開削トンネル
2014.5.12	老朽化対策の本格実施求め「最後の警告」
2014.6.9	クイズ 維持・補修に強くなる 第5回 下水道管路施設
2014.6.23	ビッグデータで維持管理、人材難見越す東日本高速 インフラ長寿命化、2020年度までの行動計画を決定 コンクリート診断士 試験直前対策
2014.7.14	トンネルや橋の点検義務化、近接目視に戸惑いも 誰も管理しない橋、コンクリ落下で“発見”相次ぐ
2014.7.28	国登録の民間資格、維持管理の要件に ひび割れ抑制効果が10年継続 橋のひび割れを真横から撮影
2014.8.11	クイズ 維持・補修に強くなる 第6回 棧橋上部工
2014.8.25	特集 維持・補修2014 インフラ市場異種競争奪戦
2014.9.8	スキャナーで塩化物イオン濃度を正確に測定
2014.9.22	維持・補修の攻め口 難市場攻略へ「知恵比べ」が激化



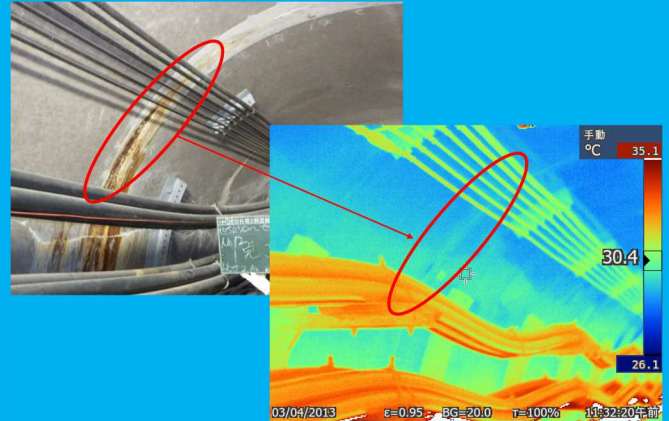
新技術等の紹介

タイトル:STTG工法 (Super Two Top Grout Technology)

目地の開きにも追従し、大量の漏水も確実に止水する新しい漏水補修工法です。



補修前のサーモグラフィック写真



補修後のサーモグラフィック写真



2ショットノズルによる注入状況写真

〔連絡先〕

一般社団法人 STTG工法協会 佐藤 亘

TEL, Fax 03-6715-4395

E-mail ; sttgkouhou@hb.tp1.jp

東京電設サービス㈱と東京電力㈱他は地下コンクリート構造物からの漏水補修にSTTG工法 (Super Two Top Grout Technology) と呼ばれる新たな止水工法を開発し、実工事へ適用している。本工法は、石油樹脂・アクリル樹脂を高分子アルコールで乳化した水性エマルジョン材料のアルファー・ゾルを主材とすることを特徴としている。アルファー・ゾルは、従来のウレタン系止水材などに比べ、硬化後の伸びや付着性能、耐久性能に優れるため、一旦注入すれば地震などでコンクリートの隙間が開いても、これに追従し止水材としての性能を永く維持できる。しかし、初期の硬化時間が長いいため施工中に材料が水に流されやすく、多量の漏水部では適用困難とされていた。

本工法は、主材に吸水性ウレタンを適量混合することにより、主材の性能を維持しつつ硬化速度を適度に速め、多量漏水部でも適用できる様に開発したものである。具体的には両液をそれぞれの専用ポンプで圧送し、混合割合を制御しながら注入直前に攪拌混合し、あらかじめ設置した注入ピンを介して補修部位に混合液を注入するものである。一般的には、アルファー・ゾルに対し吸水性ウレタンを重量比5%から10%として硬化時間を調整する。

この成果を、都内の地中送電用トンネルの漏水補修工事に適用し、多量な漏水に対しても十分な止水効果が得られることを確認した。その後、40件以上の漏水補修工事を実施し、1年以上経過しても再漏水は発生していない。なお、6月23日に一般社団法人STTG工法協会を設立し、会員として東京電設サービス㈱と本工法に関係した15社が参加した。同協会は、本工法の標準化とともに広く周知し、幅広い分野で本工法を普及させていくため、会員会社を募集している。なお、会員の特典として本広報の施工技術の習得、各種データ、技術動向の情報共有がある。

投稿記事募集

維持管理に関する、新技術等の情報がありましたら、会員の皆様に紹介して行きたいと考えておりますので、情報提供をお願いします。

新技術に限らなくても、会社 PR でも構いませんので、どんどん記事の投稿をお願い致します。

詳しくは、JCD 幹事会(メールかわら版担当)まで…



簡素な入口ですが
「餃子 かんべゑ」
浜松市南区若林 1169
TEL 053 - 447 - 4561
定休日 木曜日
JR 浜松駅より西へ車で 10 分程度の処です